

キャリア教育に関する資料

キャリア教育の必要性と方向性

- 2030年(目の前の子どもが大人になる頃:注釈赤羽)
 - ・65歳以上が総人口の3割に
 - ・生産年齢人口は総人口の約58%にまで減少する見込み
 - ・世界のGDPに占める日本の割合は、現在の5.8%から3.4%にまで低下するとの予測。国際的な存在感の低下懸念
(中教審 企画特別部会「論点整理」2015年8月)
- 「子どもたちの65%は将来、今は存在していない職業に就く」
(キャシー・デビッドソン(ニューヨーク市立大学大学院センター教授))
- 「今後10年～20年程度で、半数近くの仕事が自動化される可能性が高い」
(マイケル・オズボーン(オックスフォード大学准教授))
- 「2045年には人工知能が人類を越える『シンギュラリティ』に到達するという指摘」
(「論点整理」)

「ピンチはチャンス」

「成功の反対は、失敗ではない。やらないことだ」 (佐々木 則夫)

「未来を予測する最善の方法は、それを発明することだ」

(アラン・ケイ(カリフォルニア大学ロサンゼルス校准教授))

- ・65歳以上が3割
- ・生産年齢は約58%
- ・GDP世界の3.4%
- ・半数近くの仕事が自動化され、65%は、今は存在していない職業に就く



22歳

20歳

18歳

15歳

12歳

6歳

産業構造や就業構造の急激な変化、子ども・若者の変化等、社会全体を通じた構造的問題が存在。

◆「学校から社会・職業への移行」が円滑に行われていない。

- ・完全失業率や非正規雇用率の高さ
- ・無業者や早期離職者の存在

H11答申

- ・進学も就職もしていない人：約9%
- ・3年以内の離職率：高卒約47%
大卒約32%

- 各教科等の授業
- 特別活動
- 部活動 など

- 各教科等の授業
- 特別活動 など

◆「社会的・職業的自立」に向けて様々な課題が見られる。

- ・コミュニケーション能力等職業人としての基本能力の低下
- ・進路選択に対する目的意識の希薄さ
- ・職業意識・職業観の未熟さ

◆学校での生活や学びに対する目的意識の希薄さが見られる。

- ・将来への不安や学校での学習と将来との関係が見出せないことから、学習意欲が低下、学習習慣が確立しない

「私たちの仕事は今日、明日のためではない。勿論、それも大事だが、子どもの10年後、20年後のためなのだ」 (先輩の先生の言葉)

単に個々の子どもや若者の責任にのみ帰結させるべきものではなく、**社会を構成する各界が互いに役割を認識し、一体となり対応することが必要**。その中で、**学校教育は重要な役割を果たすもの**であり、**キャリア教育を充実していかなければならない**。



22歳

一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、**キャリア発達**を促す教育

20歳

社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程

18歳

職場見学、職場体験、進路指導もキャリア教育に含まれるが、同義ではない【注釈：赤羽】

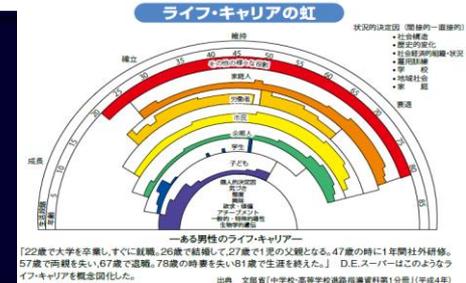
15歳

- 各教科等の授業
- 特別活動
- 部活動 など

12歳

- 各教科等の授業
- 特別活動 など

6歳



- ◆「勤労観・職業観」のみを育てる教育ではない。
 - ・社会的・職業的自立のために必要な基盤となる能力の育成が、キャリア教育の中心的な課題。
- ◆職業教育はキャリア教育と同義ではない。



【基本的な方向性】

- 後期中等教育修了までに、生涯にわたる多様なキャリア形成に共通して必要な能力や態度を育成し、また、これらの育成を通じ、価値観、とりわけ勤労観・職業観を自ら形成・確立すること。
- 社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力である「**基礎的・汎用的能力**」を育成すること。
- キャリア教育を実践し、学校生活と社会生活や職業生活を結び、関連付け、将来の夢と学業を結びつけることにより、**児童生徒の学習意欲**を喚起すること。

【学校における実践の具体的方向性】

- 各教科等の授業
- 特別活動
- 部活動 など

- 各教科等の授業
- 特別活動 など

- 学校における**体系的・系統的なキャリア教育実践**の促進
- 職場体験活動やインターンシップなどの体験活動**の充実
- 学校と地域・社会や産業界等が連携・協働した取組の促進**

課題

キャリア教育の必要性や意義の理解は、学校教育の中で高まってきており、実際の成果も徐々に上がっている。

しかしながら、「新しい教育活動を指すものではない」としてきたことにより、**従来の教育活動のままでよいと誤解**されたり、「体験活動が重要」という側面のみをとらえて、**職場体験活動の実施をもってキャリア教育を行ったものとみなしたりする**傾向が指摘されるなど、一人一人の教員の受け止め方や実践の内容・水準には、ばらつきのあることも課題としてうかがえる。

キャリア教育と職業教育（育成する力と教育活動）

◆キャリア教育

- ・一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な**基盤となる能力や態度**
- ・様々な教育活動の中で実施される。職業教育も含まれる。

◆職業教育

- ・一定又は特定の職業に従事するために必要な知識、技能、能力や態度
- ・具体の職業に関する教育を通して行われる。

（職業教育は「極めて有効」。また「勤労観・職業観」の相対的地位は低下せず。【注釈：赤羽】）

キャリア教育と進路指導

- ・定義・概念はほぼ同じ。理念から離れた「進路指導（＝出口指導）」が課題
- ・キャリア教育：就学前段階・初等中等教育・高等教育を貫く　進路指導：中高に限定